



わっやま夢いっしょ

松原

学校通信まつばら 12月号
令和元年11月29日(第420号)

世田谷区立松原小学校
校長 峯岸 敦子
〒156-0043 世田谷区松原5-43-26
TEL 3322-0191 FAX 3322-4351
URL <http://school.setagaya.ed.jp/maba/>

題字は、彩の会 竹尾昭子先生にお書きいただきました。

多様性を受容すること

副校長 久野 浩誉

アルバム題の英訳は so kakkoi pluriverse. 宇宙を universe と訳すのは、僕は今は無理。uni は一つという意味なので、一つの見方ではダメな今の時代、「一つの宇宙」は語感が悪い。そのために plural (複数の) を冠した pluriverse という言葉が現れ、今はただ「宇宙・世界」という意味で、僕は普通に耳にする。

これは、90年代に一世を風靡した後、突然ニューヨークに拠点を移し、アメリカでしばらく活動した後、に帰国し、この11月に13年ぶりのニューアルバム「so kakkoi 宇宙」をリリースした小沢健二氏の11月14日のツイートです。このツイートから私は、「一つ」よりも「複数の」ものを志向する世界的な流れのようなものを感じました。

さて、展覧会前の11月11日、PTAの代表委員会がありました。担任でなく、校長でもない私は、ふだん保護者の方々に向けてお話をすることがほとんどないので、そういう機会をいただくとつい、熱弁をふるってしまいます。その代表委員会での話というのは、「これからは、今まで以上に『多様性を受容する』ことが学校の大きな役割になるのではないか」とそして「その『多様性を受容する』という視点で展覧会を見てほしい」ということでした。詳しくは、先日配布されたPTAだよりに掲載されていますので、興味のある方はぜひお読みください。

そして11月15日、展覧会が、大盛況のうちに幕を閉じました。

小さな芸術家たちの作品は、保護者の方々の目にどのように映ったのでしょうか。作品を見て、子どもたちがその作品作りに没頭している姿が感じられたのでしょうか。一人ひとりのもつ、きらめく個性が感じられたのでしょうか。そして何より、会場全体から子どもたちのもつ「多様性」が感じられたのでしょうか。もしその「多様性」が感じられたとするならば、それこそが子どもが自分たちでつくりあげた「pluriverse」だと思っています。

展覧会には実に1000人を超える入場者がありました。改めて保護者・地域の皆様の学校への関心の高さをひしひしと感じています。これからも「多様性を受容する」学校づくりに努めて参ります。

12月の行事予定

3日(火) クラブなし 保護者会(3, 4年)	10日(火) クラブ活動(6校時)
4日(水) 学校保健委員会	14日(土) 土曜授業日
5日(木) 委員会・クラブ発表集会	17日(火) クラブ活動(6校時)
6日(金) 短なわ週間終 保護者会(1, 2年)	19日(木) クラブ合唱団発表集会
9日(月) 避難訓練(朝会時)	20日(金) なかよしタイム
	24日(火) 給食終

2月13日(木)は池之上小学校の研究発表に参加するため、全校4時間授業となります。

【12月の生活目標】

<生活>後かたづけをきちんとしよう。

<保健>冬を健康にすごそう。

<給食>残さず食べよう。

【人格の完成を目指して】

12月のテーマ：『美化』

- ・みんなで協力し合って、すみずみまできれいにそうじしよう。
- ・みんなが使うところ(流し、図書室など)は、特にきれいに使おう。

クラブ・委員会活動

クラブ・委員会担当 谷野 香里

クラブ活動は、4年生から6年生までの児童が、異学年と交流しながら取り組んでいます。自分の特技をさらに伸ばしたり、普段できないことに挑戦したり、楽しく活動しています。また、自分たちで活動の内容を話し合い、自主的に進める活発な様子がみられます。学年を越え、各々が生き生きとめあてに向かって活動しています。

委員会活動は、5・6年生の児童が取り組んでいます。どの委員会も学校を支える大切な仕事です。誰かが見ているわけでもないのに、こつこつと自分の仕事をする高学年の姿は本当に立派です。そのような姿を見て下級生は「5・6年生は立派だな。委員会活動をやりたいな!」と憧れを抱き、目標としています。

クラブ・委員会活動は、さまざまな集団活動を通して、松原小の一員としてよりよい学校生活や人間関係を築き、一人ひとりが活躍できるよう取り組んでいます。

展覧会を終えて

3年担任 中上 秀哉

「あと1分で体育館の入り口に集合してください。」担任の声が無慈悲に響く。

「ええっ、まだ見終わってないよ。」「6年生の魚を見てなあい。」子どもたちの叫び声。

私は体育館を見渡した。体育館を覆い隠すかのような子どもたちの作品の海。

そう、これほどの作品の数々を、30分や40分の時間で全て見るのは不可能だ。

できることならば1日かけ、一つ一つの作品を堪能したい。その思いは私も同じ。

子どもたちの夢が、アイデアが、願いが、そしてかけた多くの時間がこの空間にはつまっている。

この空間を共有できた者達は幸いである。

自然について

事務主事 山口 隆寿

力作に恵まれた今年の展覧会も終わり、北風の吹く季節に一気に進んだようです。ところで、今年の展覧会の共同制作のテーマは、「自然」でしたが、私も半世紀以上世田谷区に住んでおり、小学生の頃は、夏休みには森でカブトムシを掴まえて、そのときに、樹液の出る幹に国蝶のオオムラサキを見かけたことを鮮明に覚えています。また、母方の実家の三陸海岸の、今は震災でなくなった堤防で魚釣りをしたのですが、当時、東京では冬にはアイナメ等が釣れたのが、数年前からは、関東以南で採れる鰯がとれる程、自然環境が変わったようです。

今年は台風の大雨等の災害もありましたが、私たちも自然の一員で、自然を壊さない意識と謙虚な姿勢が必要ではないかと思いました。